

### 「夏至・部分日食」

6月21日は夏至。夏至は24節気のうちの一つ。北半球では、日の出から日没までの時間が最も長い日とされています。

その日の、夕方、日本列島は各地で太陽の一部が月に隠れる「部分日食」が起きました。日本で部分日食が起きるのは、昨年12月以来です。

この時を逃さず、皆さんに観察していただこうと、教育事業として「部分日食」観察会を企画しました。

午後4時過ぎに太陽が欠け始め、5時過ぎくらいには欠ける割合が最大になりました。

参加された方々一人一人に、日食メガネを用意し、観察していただきました。福島県は面積が広く、福島市では、その時間厚い雲に覆われ部分日食が見ることはできませんでしたが、ここ猪苗代町ははっきりと肉眼でも太陽の一部が欠けている様子を観察することができました。

夏至と日食が重なるのは、実に372年ぶりだそうです。前回は江戸時代であったのですね。御天皇光明の慶安時代の始まりの年、将軍は徳川家光です。百姓への贅沢を戒め質素な生活を奨励した慶安のお触書が有名ですよ。

今回の日食では、日本では、日本では部分日食でしたが、中国や台湾では、太陽と月がちょうど重なり太陽の外周がリング状に見える金環日食が観察できたそうです。

日本で次に部分日食が観察できるのは2023年4月20日です。また、金環日食が観察できるのは2030年、皆既日食が観察できるのは2035年だそうです。